

地域医療の現況アンケート調査実施要領

1 調査の趣旨

- 県では、平成25年12月、医師のキャリア形成と一体的に、医師の地域偏在を解消することを目的として「熊本県地域医療支援機構」を設置。
- 熊本大学医学部附属病院と連携しながら、地域において医師を育成する「地域医療実践教育拠点」の設置や医師不足の医療機関に対する診療支援等に取組んでいる。
- このような活動を引き続き推進するとともに、今後、県内の医療機関で勤務することとなる熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア支援策を検討するために、各地域の医療の現状を把握しておく必要があり、本調査を実施するもの。

2 調査実施主体

熊本県地域医療支援機構
熊本県健康福祉部健康局医療政策課

3 調査対象

県内全ての病院（約214病院）

4 調査内容

医療機関の現況に関する事項（15項目）

5 調査票回収期限

平成27年4月

6 提出先

熊本県地域医療支援機構
（熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター内）
〒860-8556 熊本市中央区本庄1丁目1番1号 TEL096-373-5627

7 その他

調査で取得した情報については、県及び熊本大学の情報公開及び個人情報に関する規定に基づき管理し、施策の検討や研究に限定して使用する。

地域医療に関するアンケート調査(中間報告)

対象: 県内全病院 (214病院)

回答病院: 119病院 (55.6%)～平成27年4月25日時点

調査項目: 勤務医師内訳 (年齢・性別)

医師充足状況

常勤医師労働環境 (月平均当直回数)

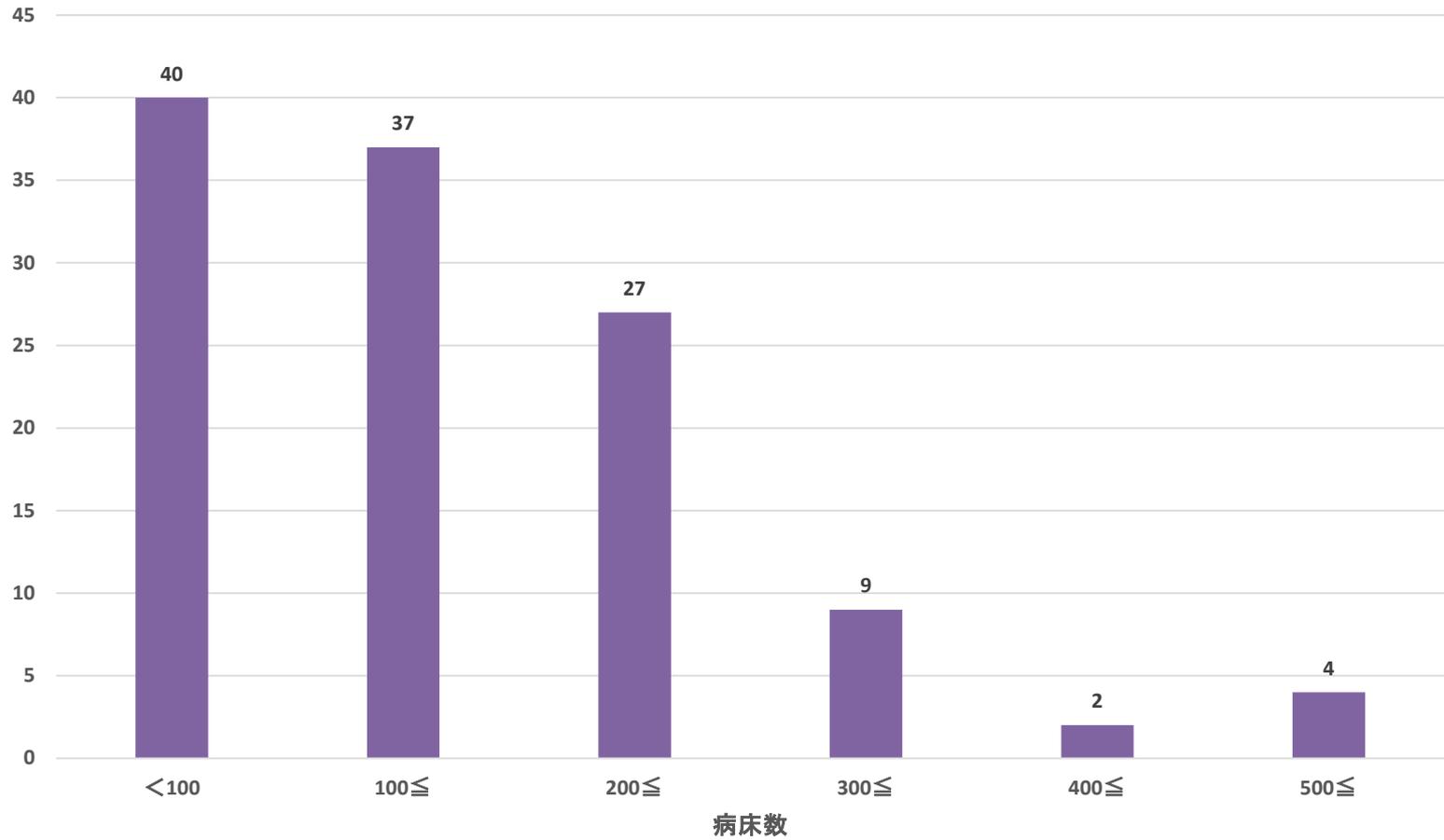
必要とされる医師像

医師以外の医療従事者 (看護師・薬剤師・理学療法士・医療事務)の不足状況

その他

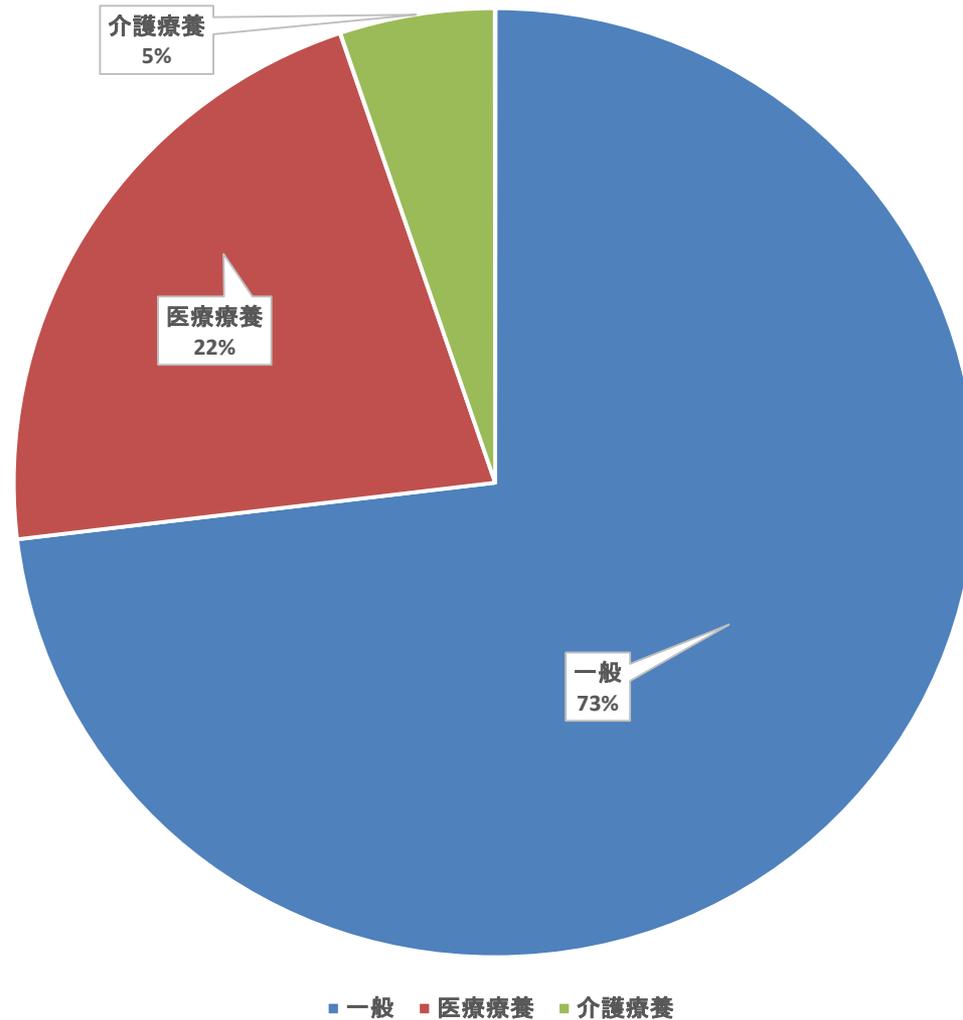
回答病院の病床数別内訳

回答病院数



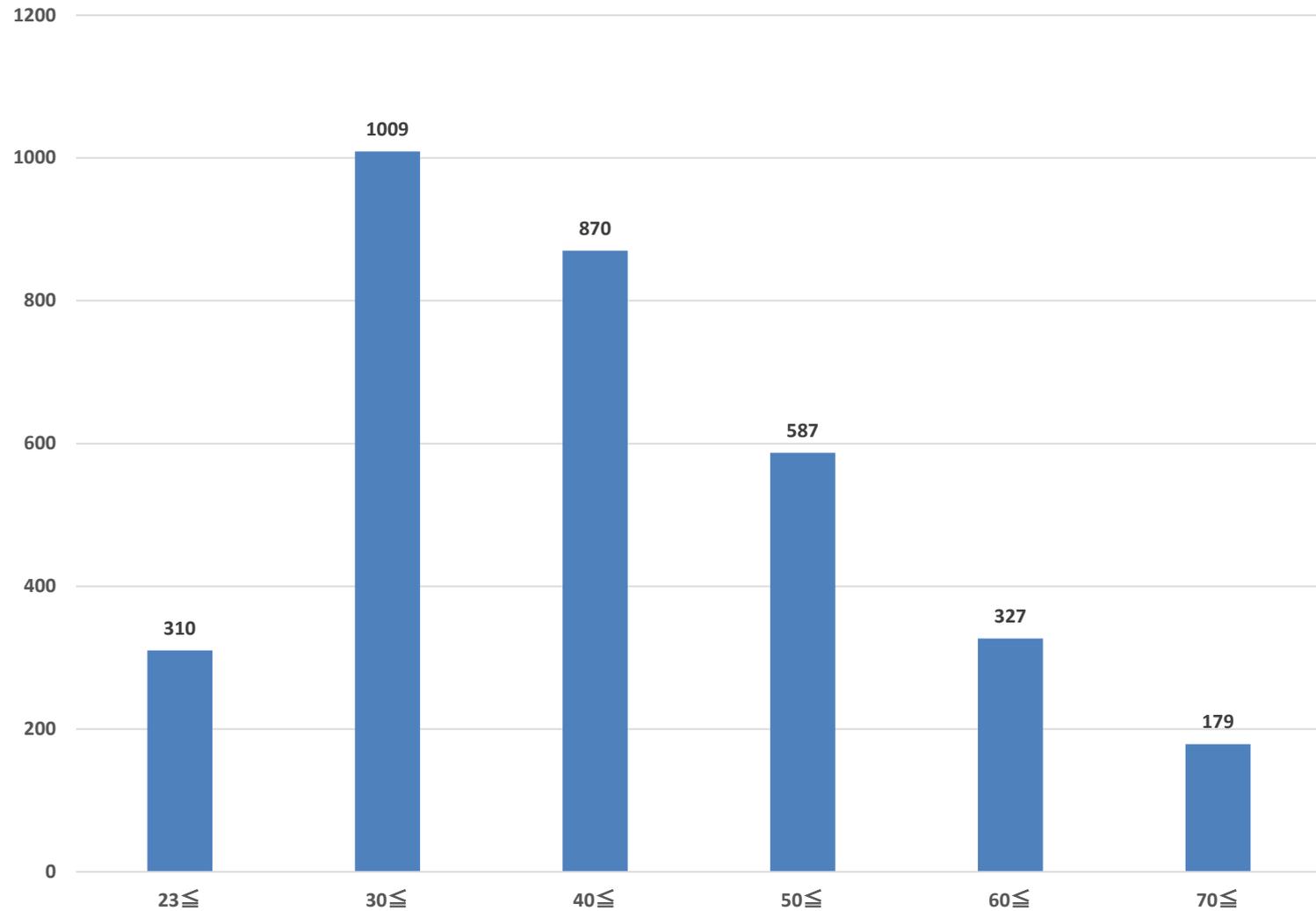
回答病院の病床種別の分布

病床種別の分布



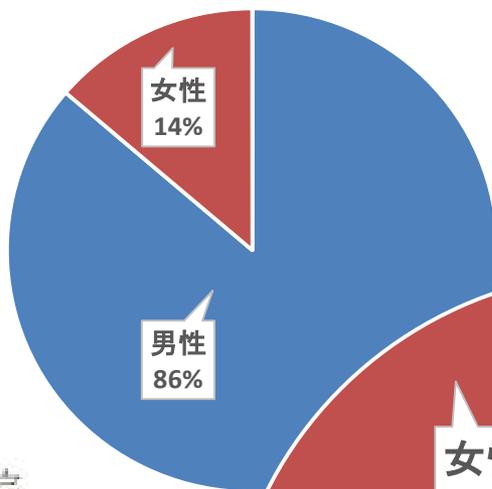
回答病院の勤務医師の年齢構成

勤務医師の年齢構成

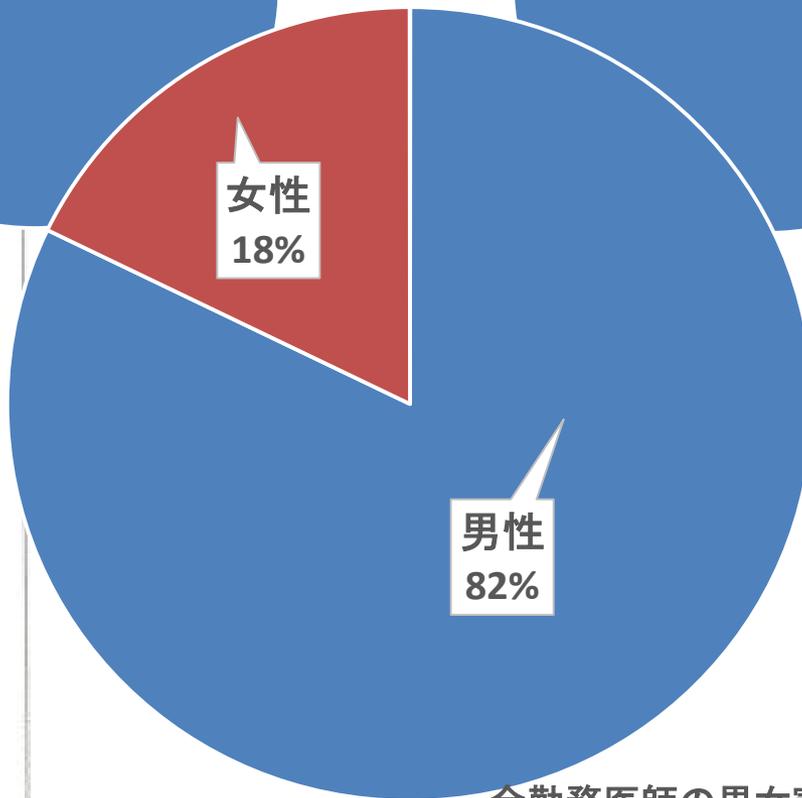
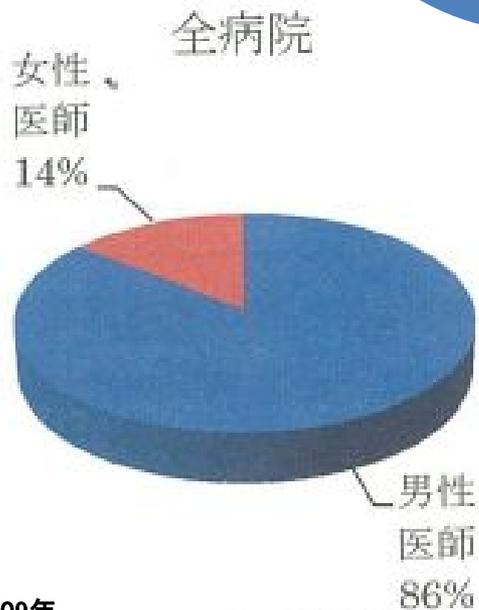
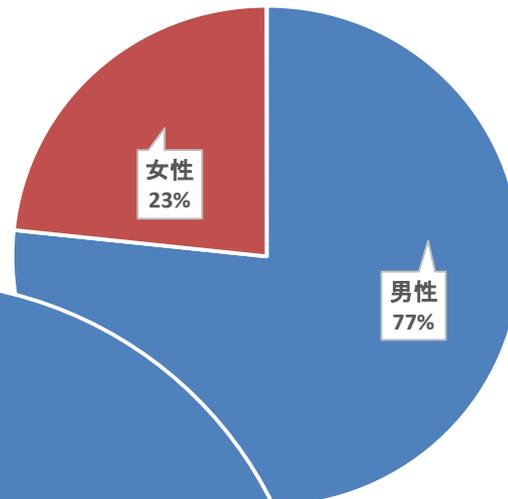


回答病院の勤務医師の性別

常勤医師の男女割合



非常勤医師の男女割合



全勤務医師の男女割合

医師の充足状況

医師が不足している病院数:69病院 (57.9%) 2ポイント改善? 2009年:100病院 (59.9%)

| 医療圏 | 医師数充足 病院数 | 医師数不足 病院数 | 不足している 病院の割合 |
|-----|--------------|--------------|-----------------|
| 県全体 | 67 | 100 | 59.9 % |
| 熊本 | 28 | 39 | 58.2 % |
| 有明 | 4 | 7 | 63.6 % |
| 鹿本 | 2 | 5 | 71.4 % |
| 菊池 | 4 | 10 | 71.4 % |
| 阿蘇 | 1 | 4 | 80.0 % |
| 上益城 | 3 | 7 | 70.0 % |
| 宇城 | 6 | 7 | 53.8 % |
| 八代 | 4 | 5 | 55.6 % |
| 芦北 | 6 | 3 | 33.3 % |
| 球磨 | 4 | 5 | 55.6 % |
| 天草 | 5 | 8 | 61.5 % |

2009年

常勤医師の増員希望人数、月平均当直回数、
 医師以外の医療従事者（看護師・薬剤師・理学療法士・医療事務）の不足状況

常勤医師の増員希望人数:167人 横ばい? 2009年:333人 (右図)

常勤医師の増員希望人数

| | |
|-----|-----|
| 熊本 | 131 |
| 有明 | 30 |
| 鹿本 | 19 |
| 菊池 | 25 |
| 阿蘇 | 9 |
| 上益城 | 10 |
| 宇城 | 16 |
| 八代 | 27 |
| 芦北 | 19 |
| 球磨 | 20 |
| 天草 | 27 |
| 県全体 | 333 |

常勤医師の月平均当直回数: 3.8回/月/人 やや改善?



2009年: 4.5回/月/人

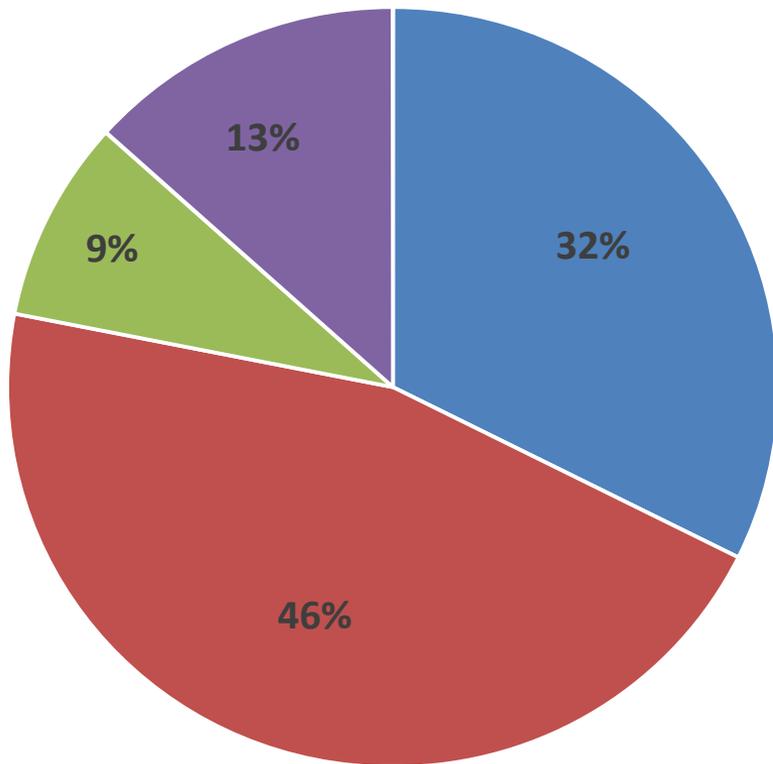
医師以外の不足状況

| | |
|-------|-------|
| 看護師不足 | 59.7% |
| 薬剤師 | 39.5% |
| 理学療法士 | 20.2% |
| 医療事務 | 17.6% |

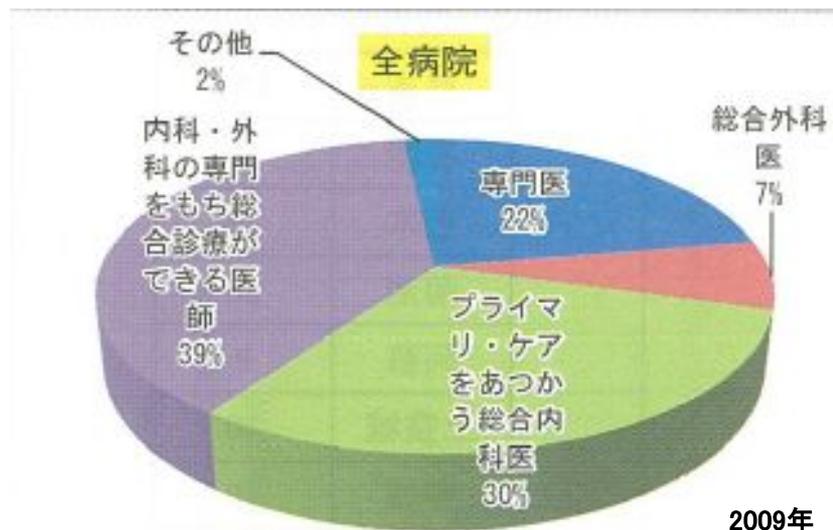
2009年: 46.7%

2009年

必要とされる医師像



- 特定の特定の疾患の治療検査をおこなう専門医 (領域別専門医)
- プライマリ・ケアを主に行う医師
- 外科系専門医
- その他の専門医



まとめ

今回のアンケート調査中間集計の結果、問題点をまとめると、以下の6点になる。
2009年と比較して、

- ① 自治体病院の常勤医師数は増加しているが、熊本市内の病院常勤医が増加しているのみであり、熊本市外のそれは、ほぼ変わっておらず、結果的に熊本市への医師の偏在が更に顕著となっている。

以下、中間報告につき、現時点で断定はできないが、

- ② 勤務医師(特に非常勤)の女性の割合は増加傾向と考えられる。
- ③ 医師の充足状況は、6年後の現在も不足する病院割合は変化が無く、上述の医師の偏在の顕著化を反映していると考えられる。
- ④ 常勤医師の増員希望人数は、55.6%の回答時点を加味すると、300人と減少が示唆されるが、地域偏在の顕著化を考慮すると、熊本市内の増員希望人数の減少が影響したものと考えられる。今後、地域別(医療圏域別)の解析が必要。
- ⑤ 必要とされる医師像は、「プライマリケアを主に行う医師」が顕著に増加しており、総合診療医の不足が如実に表れている。
- ⑥ 医師のみならず、看護師・薬剤師・理学療法士・医療事務の不足も問題であり、看護師不足は特に深刻化している。

今後、熊本県内の地域医療の充実を図るには上記の問題点を考慮し、継続的に地域医療を担うことができる「総合診療医」を育成する事が望まれる。そのためのシステムの一つとして、「地域医療実践教育玉名拠点」のこれからの活動には大いに期待される。

